



寄贈図書を紹介

編集委員会

吉本貞昭著『世界が語る大東亜戦争と東京裁判』ハート出版

著者の吉本貞昭氏は、今から80年前、昭和20年9月14日に、市ヶ谷台第1総軍司令部で自決された吉本貞一元陸軍大将のご親族です。国立大学の大学院を修了後、中国留学を経て大学の研究機関に所属、中国研究の他、明治維新、日清戦争、日露戦争、大東亜戦争、占領政策などの近現代史について研究、平成28年1月に吉本研究会を設立し、市民と大学生を対象に近現代史セミナーを実施しています。

著者が執筆に当たって最も念頭に置いたのは、戦前の日本人が国難に殉じていかに戦ったかを国民に伝えることです。戦後の日本人も大東亜戦争の世界史的意義や東京裁判の正体を、これから生まれてくる子孫のために伝えていかなければなりません。

本書に掲載された世界の指導者や識者が語る168に及ぶ名言は、輝きを放って、日本人に生きる勇氣と希望を与えてくれます。大東亜戦争

は「村山談話」や歴史教科書にあるような「侵略戦争」ではないし、東京裁判がいかに裁判に値しない偽善的な茶番劇であったかが分かります。

本書によって日本人が大東亜戦争の世界史的意義を再評価し、東京裁判がもたらした誤った歴史認識から脱却して、失われた自信と誇りを取り戻すための一助となれば幸いです。

目次

第一部 封印された日清・日露戦争と大東亜戦争

第二部 世界の指導者と識者が語る大東亜戦争の真実

第三部 封印された東京裁判の正体
第四部 世界の指導者と識者が語る東京裁判の正体



ハート出版 本体1200円＋税

吉本貞昭著『日本とアジアの大東亜戦争』ハート出版

（もともと日本が好きになる・親子で読む近現代史シリーズ）

アジアの国々の独立戦争を助けた日本は、降伏したとはいえ、西欧列強の植民地支配を打ち壊し、世界史の流れを大きく変えることに力を尽くした国であることは、まぎれもない事実です。

大東亜戦争後、アジアの多くの国々が、長いあいだ苦しめられてきた西欧列強の植民地支配から解放されて発展を遂げたこと、そして日本がそのことに力を尽くした国であることに対して、日本人は、もともと大きな自信と誇りを持つべきです。



ハート出版 本体1400円＋税

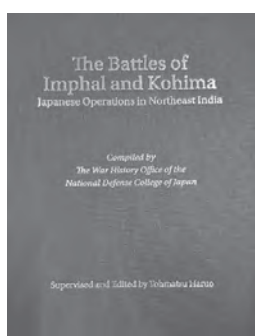
ご関心のある方は、メール又は電話でご連絡ください。

henshu@rikushunkaikaisha.or.jp
（電話）03-6380-0623

『インパール作戦—ビルマの防衛』戦史叢書抜粋版（等松春夫監修）

『The Battles of Imphal and Kohima : Japanese Operation in Northeast India』

第2次世界大戦のインパール及びコヒマの戦いに関する既存の資料の大半はイギリスや連合国の視点や経験が中心となっており、日本の視点十分に反映されていないのが実状でした。こうした背景から、公益財団法人笹川平和財団が防衛大学校の等松春夫教授をはじめとする学者や陸修偕行社会員 関口高史氏などの専門家と協力し、当該戦いにおける日本軍の行動に焦点を当てた本書を制作しました。本書は一般販売ではなく、笹川財団ウェブサイトにおいてPDF版が無料公開されています。



https://www.spl.org/global-data/user162/TheBattlesofImphalandKohima.pdf/20250304164154